Panasonic®

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　SC-ZT2

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

保証書別添付

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に**「安全上のご注意」（➔ 28 ～ 30 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

■ SC-ZT2 の構成

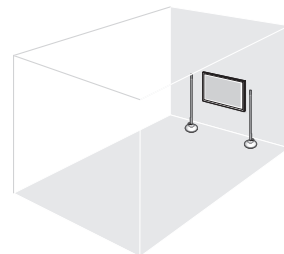
本体（コントロールボックス部）	SU-ZT2
スピーカー	SB-ZT2

VQT2R69

ホームシアター完成までの流れ

ステップ1 スピーカーを設置する（➔ 7 ページ）

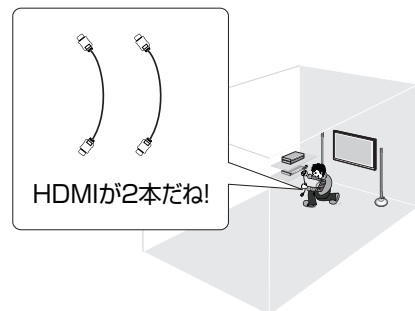
スピーカーコードが不要なので、自由にレイアウトできます。

- スピーカーが転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置してください。
- 各スピーカーには電源コード（付属）が必要です。

ステップ2 テレビとレコーダーを本体に接続する（➔ 8 ページ）

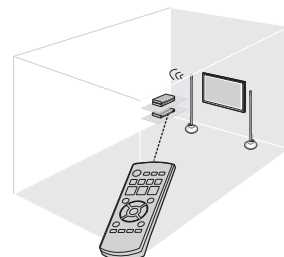
（本システムには、テレビやレコーダーなどの各機器は含まれておりません。）

本体と各機器を設置・接続します。

■テレビと接続する
必要なケーブル
（音声・映像）　HDMI ケーブル：1 本（付属）
■レコーダーと接続する
必要なケーブル（品番は､｢別売品のご紹介｣（➔ 4 ページ）を参照してください。）
（音声・映像）　HDMI ケーブル：1 本（別売）

- HDMI ケーブルで接続すると、DVD などが高画質・高音質で楽しめます。
- HDMI 接続するには、テレビとレコーダーの両方に HDMI 端子が必要です。

ステップ3 スピーカーを設定する（➔ 11 ページ）

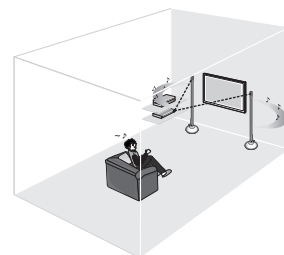
リモコンで設定します。

- 購入して初めてお使いになるときは、必ずスピーカーの設定をしてください。

ステップ4 映画や音楽を楽しむ（➔ 14、15 ページ）

DVD やテレビの音声をサラウンド効果で楽しむことができます。

- 音声をワイヤレスで伝送します。

■別売のサラウンドスピーカー（SB-ZT2）を使用するとより本格的なサラウンド再生が楽しめます。（➔ 12 ページ）

■本システムは 3D に対応しています。
3D 対応テレビ、3D 対応のブルーレイディスクレコーダー / プレーヤーを本機に接続して､市販のブルーレイ 3D ディスクなどを迫力ある 3D 映像でお楽しみいただけます。

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
（→ 28 ～ 30 ページ）

はじめに

準備

楽しむ

困ったときは？ 他

付属品

付属品をご確認ください。

●●お願い●●

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
  (品番は 2010 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。)
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

包装仕様図

- スピーカーを取り出す際は、ポール部とベース部 (➔ 6 ページ) を持ってください。

付属品と別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

CLUB Panasonic

Pana Sense

http://club.panasonic.jp/mall/sense/

別売品のご紹介

コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル	(1.0 m)	RP-CDHS10
	(1.5 m)	RP-CDHS15
	(2.0 m)	RP-CDHS20
	(3.0 m)	RP-CDHS30
光デジタルケーブル	(0.5 m)	RP-CA2005
	(1.0 m)	RP-CA2010
	(1.5 m)	RP-CA2015
	(2.0 m)	RP-CA2020
	(3.0 m)	RP-CA2030
ステレオピンコード	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(2.0 m)	RP-CAP3G20
	(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(10.0 m)	RP-CAP3G100

ケーブル類は、置き方や接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。

○○お知らせ○○

イコライザー付き HDMI ケーブルは、プラグの形状が大きいため、本体の設置に支障がないか十分確認のうえ、購入してください。

スピーカー	品　番
スピーカーシステム（サラウンドスピーカー）	SB-ZT2

別売品の品番は、2010 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

各部のはたらき

本体（コントロールボックス部）

前面

表示部

PCM 信号が入力されているときや入力信号の判別方法を PCM に固定したときに表示（➜ 22 ページ）

ワイヤレスリンク表示（ワイヤレススピーカーが正常に動作しているときに表示）（➜ 12 ページ）

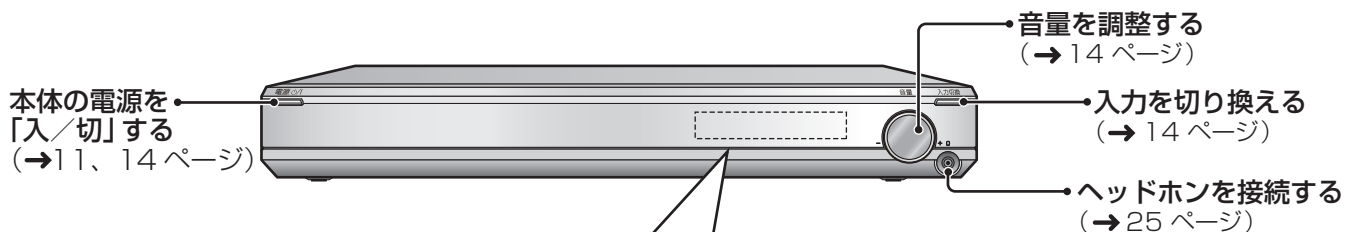
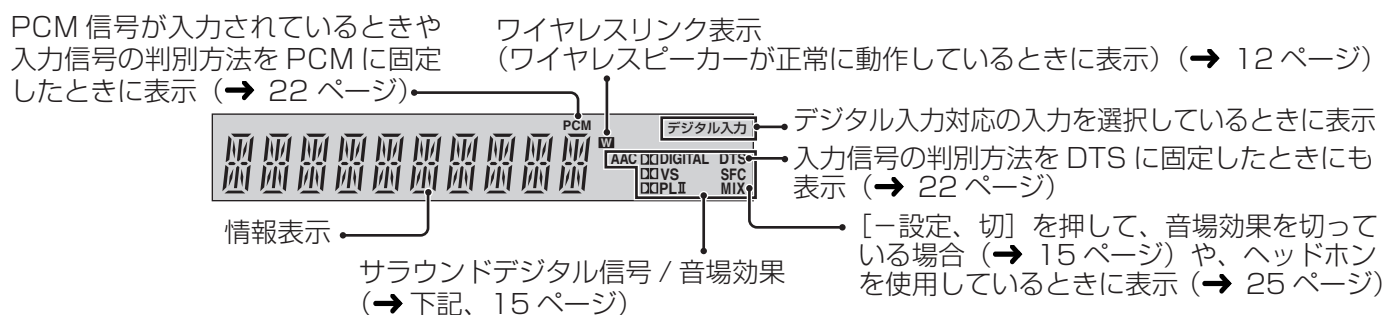
デジタル入力対応の入力を選択しているときに表示

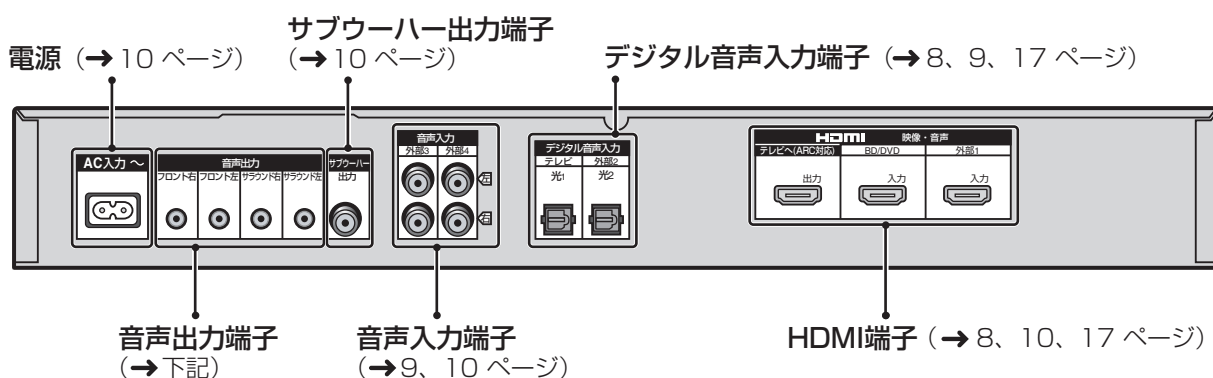
入力信号の判別方法を DTS に固定したときにも表示（➜ 22 ページ）

情報表示

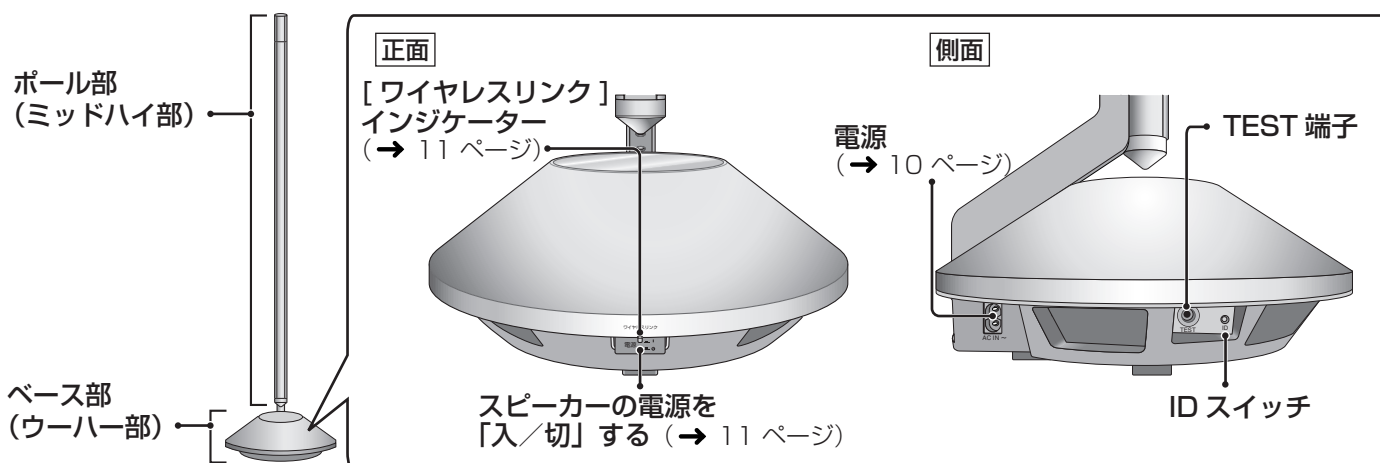
［－設定、切］を押して、音場効果を切っている場合（➜ 15 ページ）や、ヘッドホンを使用しているときに表示（➜ 25 ページ）

サラウンドデジタル信号 / 音場効果（➜ 下記、15 ページ）

PCM　W　デジタル入力　AAC DIGITAL DTS　VS SFC　PL II MIX

AAC	：AAC 信号（BS デジタル放送など）を再生しているとき	SFC	：SFC が働いているとき
DIGITAL	：ドルビーデジタル信号を再生しているとき	PL II	：ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき（2 チャンネルのステレオ信号にドルビーバーチャルスピーカーを使用したとき）
DTS	：DTS 信号を再生しているとき		
VS	：ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき		

後面

- 音声出力（フロント、サラウンド）は、他のスピーカーで再生するときなどに外部アンプに市販の変換ケーブル（モノラルミニプラグ / ピンプラグ）で接続できます。
  サブウーハー出力は、市販のピンケーブルで、市販のアンプ内蔵サブウーハーに接続できます。

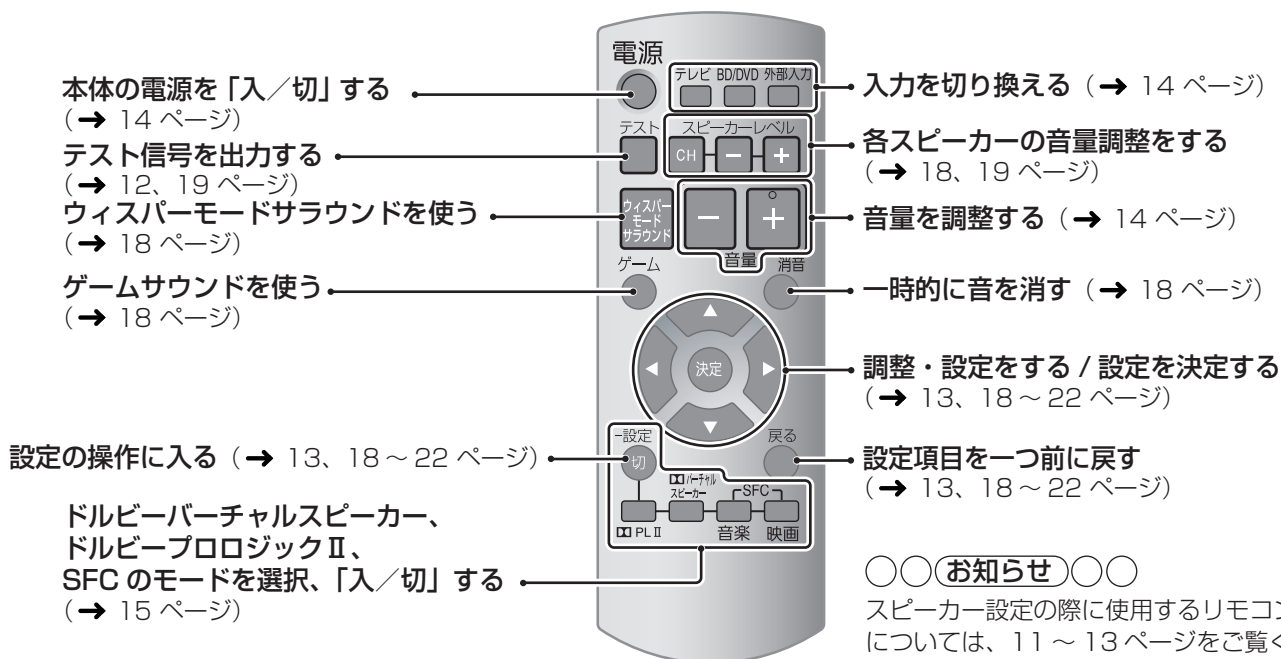
各部のはたらき（つづき）

スピーカー部（アンプ内蔵）

◯◯お知らせ◯◯

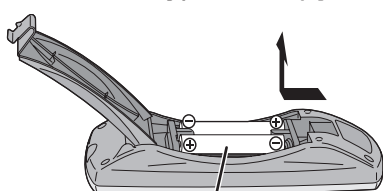
TEST 端子：製品の動作確認用の端子です。工場での確認用で、通常は使いません。異物などを差し込まないでください。
ID スイッチ：製品の動作確認用のスイッチです。通常は使いません。

リモコン

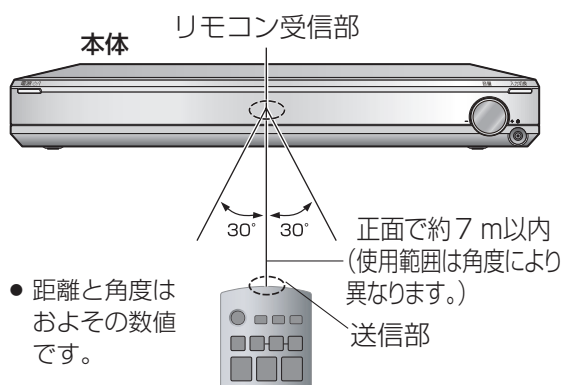
◯◯お知らせ◯◯

スピーカー設定の際に使用するリモコンボタンについては、11 ～ 13 ページをご覧ください。

リモコンの準備

乾電池の入れかた

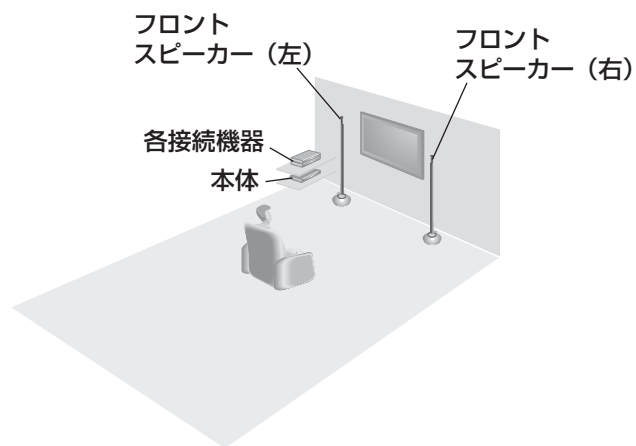
ふたのふちを押しながら開ける

電池はマンガン乾電池、または
アルカリ乾電池をお使いください。

リモコンの使いかた

● 距離と角度はおよその数値です。

■ 使用上のお願い

●受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
●受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
●受信部と送信部のほこりに注意。

設置する

設置例　● 各スピーカーは正面（社名ロゴのある方）を視聴位置に向けて設置してください。

■ 設定前のスピーカーには左右の区別はありません。

■ スピーカーが転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置してください。

■ スピーカーを持ち運ぶ際は、ポール部とベース部（➜ 左ページ）を持ってください。

■ 本システムのスピーカーは防磁設計ではありません。ブラウン管テレビの近くには設置しないでください。

お知らせ

- ベース部がカーテンなどの布でおおわれないように設置してください。
- スピーカーを設置したときに傾きが気になる場合はスペーサー（付属）をスピーカーの底面の脚にあわせて貼りつけて調整してください。スペーサーを貼るときは、周囲に十分注意してください。
- 本体を床面から 50 cm 以下の高さに置いた場合は、電波の届く範囲は短くなります。
- サラウンドスピーカーの設置については、12 ページをご覧ください。

ワイヤレス機能について

本システムは、2.4 GHz 帯の周波数を使用しているため、障害物で電波がさえぎられたり、周囲の環境（外部からの電波の混入など）や本システムをご使用になる建物の構造（電波を反射しやすい壁など）により、音が途切れたり、雑音が出る場合があります。
下記の内容にご注意いただき、正しく設置してください。

■ 周波数表示の見方（本体およびスピーカーの後面に記載）

変調方式が OFDM 方式
2.4 GHz 帯を使用　2. 4　OF1　電波干渉距離 10 m 以下
全帯域を使用 (2.4 GHz ～ 2.4835 GHz)

■ 機器認定

本システムは、電波法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本システムに以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- **分解 / 改造する**
- **本体およびスピーカーの後面に貼ってあるラベルをはがす**

■ 使用制限

- 日本国内でのみ使用できます。
- 本システムは同一部屋内でご使用ください。

■ 本体とスピーカーの間に障害物を置かない。本体の上に物を置かない。

本システムの電波が届く範囲は、同一部屋内で最大 15 m です。本体とスピーカーの間に障害物がある場合や、本体を床面から 50 cm 以下の高さに置いた場合は、電波の届く範囲は短くなります。

■ 電波干渉を生じるような機器から本システムを離す。

以下のような機器が近くにあるときは、本システムをそれらの機器から離して設置してください。

- **Bluetooth、OA 機器、電話など：約 3 m 以上**
- **電子レンジ、無線 LAN 対応機器：約 3 m 以上**

本システムは、これらの家庭用機器との電波干渉を自動的に避けるように設計されています。電波の干渉がある場合、本体のワイヤレスリンク表示（➜ 12 ページ）が点滅し、スピーカーからの音が途切れたり、雑音が出る場合があります。
これは本システムが適切な周波数を選ぶときに起きる現象で、本システムの故障ではありません。

■ 電波が反射しやすい金属物などの近くからできるだけ離す。

本システムを設置する部屋に金属物や家具などがあると、電波が反射しやすくなり視聴位置によって音が途切れたり、雑音が出る場合があります。このようなときは、本システムの位置をすこし動かすと改善される場合があります。
また、人の出入りが激しい部屋などに置いた場合も、電波が反射しやすくなりますので、ご注意ください。

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに場所を移動するか、または電波の使用を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先 : パナソニック株式会社　　パナソニック お客様ご相談センター（➜ 26 ページ）

接続する

HDMI 端子のある機器（テレビ、レコーダーなど）を接続する

使用するケーブル

HDMI ケーブル（付属または別売 ➔ ４ページ）	光デジタルケーブル（別売 ➔ ４ページ）
	角型

ARC（Audio Return Channel）（➔ 下記）による簡単接続： 従来、本システム（ホームシアターオーディオシステム）とテレビの接続には HDMI と光デジタルの２本のケーブルが必要でしたが、ARC に対応することで本システムと ARC 対応のテレビとの接続は HDMI ケーブル１本で可能となりました。
付属の HDMI ケーブルは ARC 対応です。

テレビ

ARC 非対応のテレビと接続する場合に必要な接続です。
テレビの音声を楽しむときに必要です。

デジタル
音声出力（光）

HDMI
入力

付属の HDMI ケーブルはテレビとの接続にご使用ください。
必ず テレビへ（ARC 対応） に接続してください

お知らせ
ARC 対応のテレビと接続する場合、本システムの［HDMI 出力 テレビへ（ARC 対応）］端子とテレビの HDMI 入力端子（ARC 対応）を接続してください。（テレビの HDMI 入力に、ARC 対応の端子と ARC 非対応の端子がある場合は、ARC 対応の HDMI 入力端子に接続してください。）

光デジタルケーブルの接続方法
形状を合わせて差し込む
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

本体

デジタル音声入力
テレビ 光1
外部2 光2

HDMI 映像・音声
テレビへ(ARC対応) 出力
BD/DVD 入力
外部1 入力

ブルーレイディスクレコーダー/
DVDレコーダー、
CATVセットトップボックスなど

HDMI
映像・音声
出力

■ ARC（Audio Return Channel）について

HDMI Ver.1.4 で新たに追加された機能です。
テレビなどの HDMI 入力端子から本システムの HDMI 出力端子にデジタル音声信号を送ります。
- 接続するテレビの ARC 対応 / 非対応についてはテレビの取扱説明書をご覧ください。

■ 付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
- HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、High Speed HDMI™ ケーブルをおすすめします。

■ テレビのスピーカーだけで楽しむ

- テレビとレコーダーなどの映像機器を本体の BD/DVD 入力端子や外部 1 入力端子（➔ 10 ページ）に接続している場合、電源コードを接続した状態で、本システムの電源ボタンで電源を切っても、レコーダーなどの映像 / 音声信号が本体を通過して、テレビへ伝送されます。**（スタンバイスルー機能）** テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。

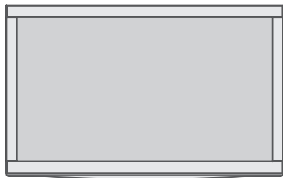
◯◯お知らせ◯◯

電源を切る前に入力を HDMI 入力 **（“*BD/DVD*” または “*AUX 1*”）** 以外に設定していても、本システムの電源ボタンで電源を切ると、HDMI 入力に接続している機器の映像 / 音声信号がテレビから出力されます。（再度、本システムの電源を入れると、設定していた入力に戻ります。）BD/DVD 入力端子と外部 1 入力端子の両方に機器を接続している場合は、最後に入力を選択した方の機器の映像 / 音声信号が出力されます。

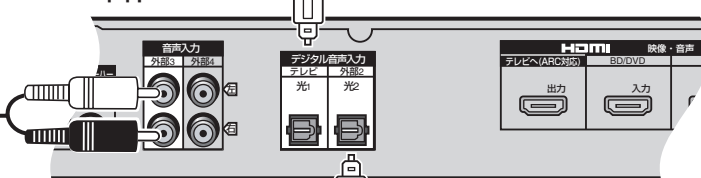
●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMI 端子がない機器（DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する

使用するケーブル

テレビ

デジタル
音声出力(光)

映像入力

音声入力

映像コード

音声コード

接続する機器に音声出力が2 系統ある場合、この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号をテレビから出力することができるようになります。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

本体

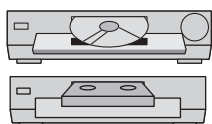
音声入力 外部3 外部4

デジタル音声入力 テレビ 外部2 光1 光2

HDMI 映像・音声 テレビへ(ARC対応) BD/DVD 出力 入力

Ⓐ

Ⓑ

DVDプレーヤー、
ビデオデッキなど

右 左
音声出力

デジタル
音声出力(光)

映像出力

音声出力

光デジタル出力端子がある場合は Ⓐ の接続方法を行ってください。
光デジタル出力端子がない場合は Ⓑ の接続方法を行ってください。

☞ **ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する場合**（DVD 専用出力端子と DVD/VHS 共用出力端子がある場合の接続です。）
DVD 専用出力端子側は上記 Ⓐ の接続をしてください。
DVD/VHS 共用出力端子側は上記 Ⓑ の接続をしてください。

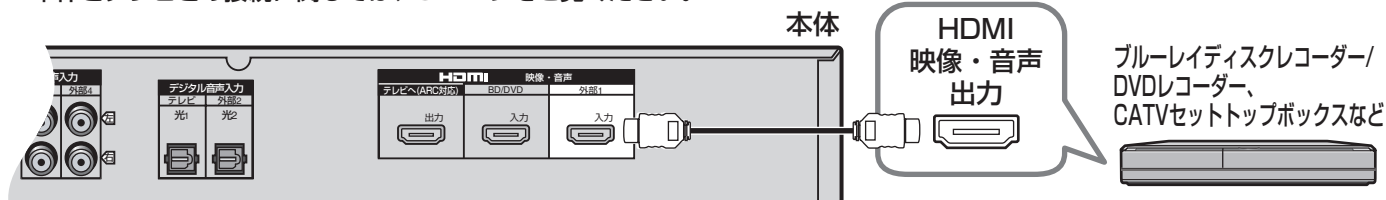
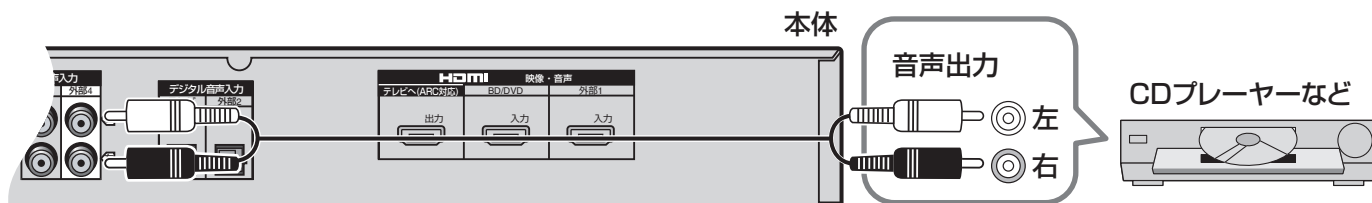
接続する（つづき）

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

その他の接続

使用するケーブル

2 台目の HDMI 対応機器を接続する

※本体とテレビとの接続に関しては、8 ページをご覧ください。

オーディオ機器（CD プレーヤーなど）を接続する

サブウーハーを接続する

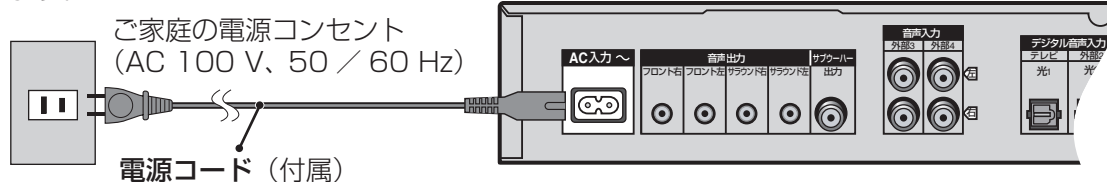
より重低音を楽しみたい場合、サブウーハー出力端子（➜ 5 ページ）に市販のアクティブサブウーハー（アンプ内蔵）を接続することができます。

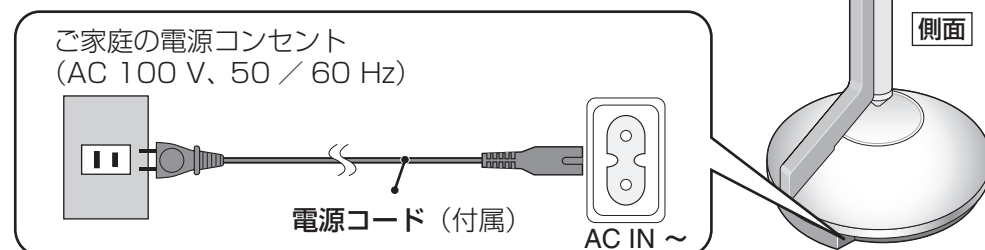
使用するケーブル

電源コードの接続

長期間使用しないときは節電のため電源プラグを抜いておくことをおすすめします。
電源プラグを抜くときは、必ず本体とスピーカーの電源を切ってから抜いてください。
電源を入れたまま電源プラグを抜くと、一部の設定が保存されない場合があります。

本体

電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.5 W（省待機電力モード時（➜ 20 ページ）は約 0.2 W）の電力を消費しています。

スピーカー部

スピーカーの待機時の消費電力については、12 ページをご覧ください。

スピーカーの設定

スピーカーの設定をする

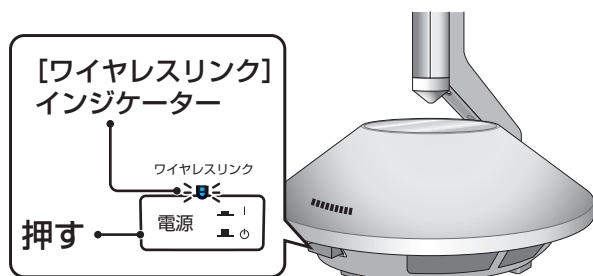
購入して初めてお使いになるときは、必ずこの設定を行ってください。

準備

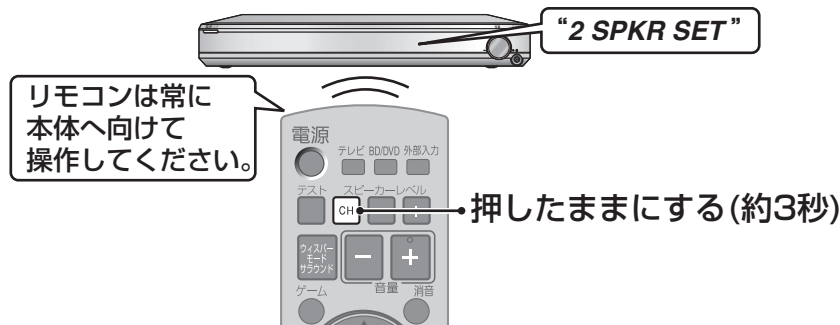
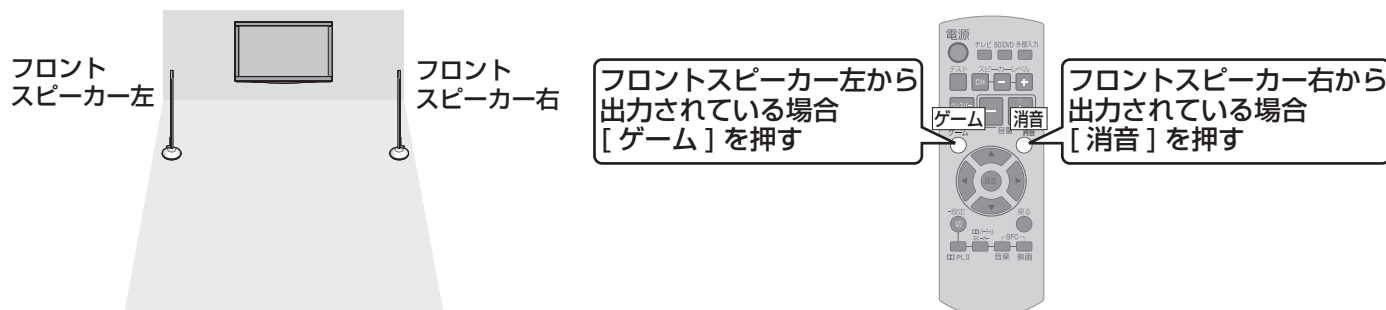
- ■ 接続している各機器の電源が切れていることを確認する。
  （ビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を接続している場合、設定が終わるまでテレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の電源は入れないでください。）
- ■ 本体と2本のスピーカーの電源コードを接続する。（➜ 左ページ）
- ■ 本体とスピーカーの電源が切れていることを確認する。
- ■ リモコンの準備をする。（➜ 6 ページ）

1. 本体の電源を入れる

- 表示部に"***2CH SEARCH***"と表示されます。
  （初めて設定したときのみ表示されます。）

2. 2本のスピーカーの電源を入れる

- [ワイヤレスリンク] インジケーターが赤から緑に変わります。
- 各スピーカーの [ワイヤレスリンク] インジケーターが緑になると"***2CH SEARCH***"の表示が消えます。

サラウンドスピーカーを設置する場合
「サラウンドスピーカーを設置する」（➜ 12 ページ）と「サラウンドスピーカーの設定をする」（➜ 13 ページ）をご覧ください。

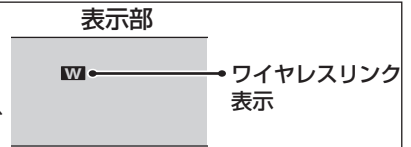
3. リモコンの [CH] を本体の表示部に"*2 SPKR SET*"と表示されるまで約 3 秒間押したままにする

4. 確認音が出力されているスピーカーに対応するリモコンのボタンを押す

- いずれかのスピーカーから確認音が出ます。
- スピーカーの確認音に対応するボタンを押すと、もう一方のスピーカーから確認音が出力されます。
  同じように対応するボタンを押して、2 本とも設定してください。
- 本体表示部の"***COMPLETE***"が消えると完了です。

お知らせ

- スピーカー設定後は、スピーカーが正しく設定されているか確認してください。（➜ 12 ページ）
- 上記手順4でスピーカー設定を間違った場合は、本体の電源を「切／入」してから手順 3、4 を行ってください。
- [ワイヤレスリンク] インジケーターが赤から緑に変わらない場合は、「故障かな！？」（➜ 24 ページ）をご覧ください。

スピーカーの設定（つづき）

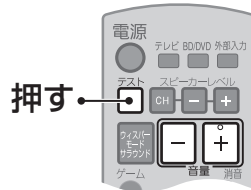
スピーカーが検出されると、本体の表示部にワイヤレスリンク表示が点灯します。
（検出動作中は点滅になります。）

ワイヤレススピーカーが正常に動作している間はワイヤレスリンク表示が点灯していますが、電波が途切れている場合（スピーカーの電源待機時など）は、点滅します。

- スピーカーの電源を入れたままの状態で、本体の電源を「切」にすると、自動的に待機状態（ワイヤレスリンクスタンバイ状態）となります。[ワイヤレスリンク] インジケーターが赤色になります。
- スピーカー部の待機状態の消費電力をさらに削減したい場合は、スピーカー部の電源を「切」にしてください。（電源待機状態になります。）

＜スピーカー部の待機時の消費電力＞
　ワイヤレスリンクスタンバイ時：約 0.8 W（1 本あたり）
　電源待機時：約 0.08 W（1 本あたり）

スピーカー設定の確認をする

1. 本体の電源を入れる

2. リモコンの [テスト] を押して、テスト信号を出力する

- 音量を調整する場合はリモコンの [音量 +、－] で音量を調整してください。

3. 本体の表示と実際のスピーカー設置場所が合っているか確認する

テスト信号は約 2 秒間隔で下記の順に出力されます。
“*TEST L*” → “*TEST R*” → “*TEST RS*”※ → “*TEST LS*”※
↑＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿｜

■ **適切な設置場所は下記の表で確認してください。**

表　示	テスト信号が出力されているスピーカー
TEST L	フロント左（左前）
TEST R	フロント右（右前）
TEST RS※	サラウンド右（右後）
TEST LS※	サラウンド左（左後）

※サラウンドスピーカーを使用している場合にのみ表示されます。

◯◯お知らせ◯◯

正しく設定されていない場合は、下記のどちらかを行ってください。
- 本体表示に合わせて、スピーカーの設置場所を移動する。
- 「スピーカーの設定をする」（➜ 11 ページ）手順 **3**、**4** からやり直す。サラウンドスピーカー使用時は、「サラウンドスピーカーの設定をする」（➜ 右ページ）手順 **7**、**8** からやり直す。

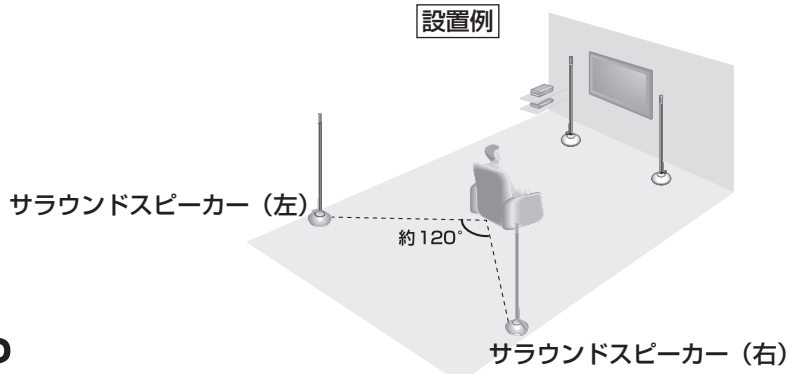
4. リモコンの［テスト］を押して、テスト信号を止める

☞ **スピーカーを修理または交換した場合**
上記「スピーカー設定の確認をする」を行い、スピーカーが正しく動作するかを確認してください。正しく音が出ないときは、下記の操作をしてください。
1. 本体の［入力切換］ボタンを“***2CH SEARCH***”と表示されるまで約 3 秒間押したままにする
2. 「スピーカーの設定をする」（➜ 11 ページ）手順 **2** ～ **4** を行う

サラウンドスピーカーを設置する

サラウンドスピーカーは別売です。

本システムでは当社製サラウンドスピーカー SB-ZT2 を設置することで、より本格的なサラウンド再生が楽しめます。

設置例

- 視聴位置のやや後方の左右に配置してください。
- 設定前のスピーカーには左右の区別はありません。
- 各スピーカーは正面（社名ロゴのある方）を視聴位置に向けて設置してください。

◯◯お知らせ◯◯

各スピーカーから視聴位置までの距離を設定してください。（➜ 20 ページ）

サラウンドスピーカーの設定をする

■ まずフロントスピーカーをワイヤレスリンクさせてから、サラウンドスピーカーの設定をします。

準備
- **接続している各機器の電源が切れていることを確認する。**
  （ビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を接続している場合、設定が終わるまでテレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の電源は入れないでください。）
- **本体と４本のスピーカーの電源コードを接続する。**（➜ 10 ページ）
- **本体とスピーカーの電源が切れていることを確認する。**
- **リモコンの準備をする。**（➜ 6 ページ）

1. 本体の電源を入れる

2. フロントスピーカーの電源を入れる

- フロントスピーカーの [ワイヤレスリンク] インジケーターが赤から緑に変わります。
- サラウンドスピーカーの電源はこの時点では入れないでください。電源を入れても［ワイヤレスリンク］インジケーターは赤から緑に変わりません。

3. 下記の「スピーカーの設置数を 4 本に変更する」で“*4CH*”に設定する

4. 本体の電源を一度切る

5. 本体の電源を再び入れる

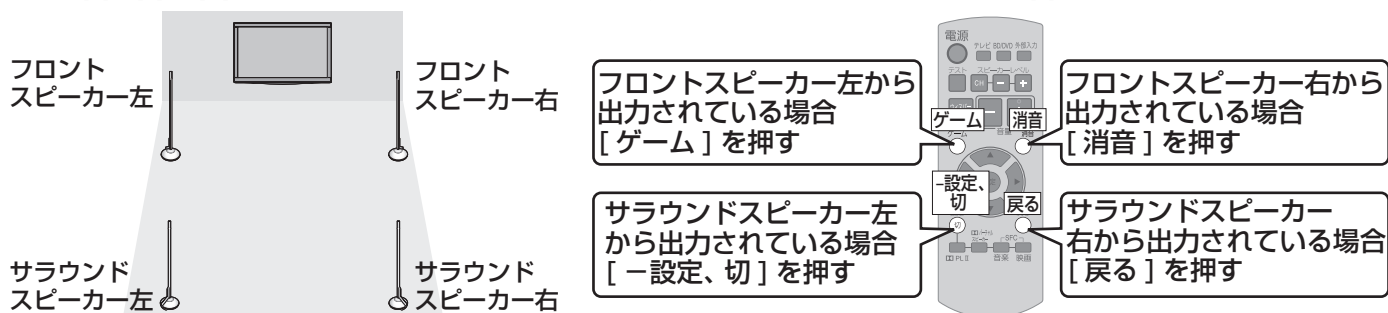
- 表示部に“***4CH SEARCH***”と表示されます。（初めて設定したときのみ表示されます。）

6. サラウンドスピーカーの電源を入れる

- サラウンドスピーカーの [ワイヤレスリンク] インジケーターが赤から緑に変わります。
- 各スピーカーの［ワイヤレスリンク］インジケーターが緑になると“***4CH SEARCH***”の表示が消えます。

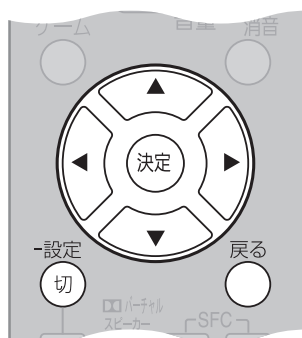
7. リモコンの［CH］を本体の表示部に“*4 SPKR SET*”と表示されるまで約３秒間押したままにする

- リモコンは常に本体へ向けて操作してください。

8. 確認音が出力されているスピーカーに対応するリモコンのボタンを押す

- いずれかのスピーカーから確認音が出力されます。
- スピーカーの確認音に対応するボタンを押すと、他のスピーカーから確認音が出力されます。
  同じように対応するボタンを順に押して、４本とも設定してください。
- 本体の表示部の“***COMPLETE***”が消えると完了です。

お知らせ
- スピーカー設定後は、スピーカーが正しく設定されているか確認してください。（➜ 左ページ）
- 上記手順 8 でスピーカー設定を間違った場合は、本体の電源を「切／入」してから手順 7、8 を行ってください。
- ［ワイヤレスリンク］インジケーターが赤から緑に変わらない場合は、「故障かな！？」（➜ 24 ページ）をご覧ください。

スピーカーの設置数を 4 本に変更する

■ **設定動作中にひとつ前に戻る／キャンセルする：[戻る] を押す**

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*SPEAKERS*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して“*4CH*”を選び、[決定] を押す

2CH：フロントスピーカーのみ設置している場合（初期設定）

4CH：サラウンドスピーカーも設置している場合

- スピーカーの設置数を２本に変更する場合は、“***2CH***”を選んで [決定] を押してください。

4. [▲] [▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す

- 中止するには“***NO***”を選ぶ

5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

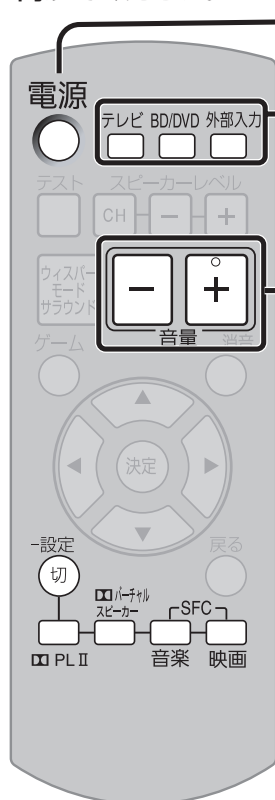
お知らせ

手順 2 で“***EXIT***”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。

映画や音楽を楽しむ

準備
- テレビの電源を入れ、テレビのリモコンで本体を接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。
- スピーカーの電源が入っていることを確認する。（以降の操作は電源を入れたワイヤレスリンクスタンバイ時（➔ 12 ページ）を前提としています。）

1 電源 本体の電源を入れる

押す

2 テレビ または BD/DVD または 外部入力 接続している機器の入力を選ぶ

押す

TV ：テレビ
BD/DVD ：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1 ：外部 1 入力端子に接続した機器
AUX 2 ：外部 2 入力端子に接続した機器
AUX 3 ：外部 3 入力端子に接続した機器
AUX 4 ：外部 4 入力端子に接続した機器

■ “*AUX 1*”、“*AUX 2*”、“*AUX 3*”、“*AUX 4*”は [外部入力] を押すごとに切り換わります。

3 接続している機器を再生する

■ いろいろなサラウンド効果を楽しむことができます。（➔ 右ページ）

4 音量 音量を調整する

押す

調整範囲：*0*（最小）～ *50*（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから[電源]を押して電源を切ってください。

本体で操作する場合

1 本体の電源を入れる

電源 ⏻/I 押す

2 接続している機器の入力を選ぶ

入力切換 押す （入力は押すごとに切り換わります。）

TV ：テレビ
BD/DVD ：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1 ：外部 1 入力端子に接続した機器
AUX 2 ：外部 2 入力端子に接続した機器
AUX 3 ：外部 3 入力端子に接続した機器
AUX 4 ：外部 4 入力端子に接続した機器

3 接続している機器を再生する

4 音量を調整する

音量 回す

お知らせ

- 本システムで再生できるデジタル信号については 24 ページをご覧ください。
- 再生する信号によっては、低音や別売サラウンドスピーカー（➔ 12、13 ページ）の音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもスピーカーの音量調整ができます。（➔ 18 ページ）
- “*TV*”に入力を切り換えても、BD/DVD 入力端子や外部 1 入力端子に接続した機器の映像（または音声）は、テレビ出力端子から出力されます。BD/DVD 入力端子と外部 1 入力端子の両方に機器を接続している場合は、最後に入力を選択した方の機器の信号が出力されます。
- ビデオデッキー体型 DVD レコーダー（DVD 専用出力端子と DVD/VHS 共用出力端子がある機器の場合）は、上記手順 2 で入力を以下のように選んでください。
  DVD を楽しむとき（外部 2 入力端子につないでいるとき）：“*AUX 2*”に合わせる
  ビデオを楽しむとき（外部 3 入力端子につないでいるとき）：“*AUX 3*”に合わせる

いろいろな音場効果を楽しむ

音場効果は入力信号によって異なります。実際の音をお聞きのうえ、お好みのモードを選んでください。

ドルビーバーチャルスピーカー

5．1チャンネルで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。（ビデオやCDなどのステレオ信号には同時にドルビープロロジックⅡが働きます。）

■ドルビーバーチャルスピーカーを使う

[バーチャルスピーカー] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 下記）

REFERENCE **（標準モード）**	標準的な効果が得られるモードです。
WIDE **（ワイドモード）**	左右の音場を更に広くするモードです。

SFC（Sound Field Control）

（サウンド フィールド コントロール）

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオ信号（ビデオやCDなど）に臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

■ SFC（Sound Field Control）を使う

ドルビーバーチャルスピーカー（➜ 上記）の効果に、さらにお好みのサラウンド効果を加えて楽しめます。

SFC [音楽] [映画] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 下記）

☞ **SFCの効果を解除する場合**

[バーチャルスピーカー]を押す（➜ 上記）

音楽	
LIVE **（ライブ）**	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。
POP/ROCK **（ポップ / ロック）**	ポピュラーやロック音楽に適した効果。
VOCAL **（ボーカル）**	ボーカルの声に臨場感を出す効果。
JAZZ **（ジャズ）**	ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。
DANCE **（ダンス）**	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。
映画	
NEWS **（ニュース）**	セリフがメインになるようなニュースやドラマに適した効果。
ACTION **（アクション）**	迫力のあるアクション映画に適した効果。
STADIUM **（スタジアム）**	スポーツ観戦しているような臨場感。
MUSICAL **（ミュージカル）**	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
GAME **（ゲーム）**	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
MONO **（モノラル）**	昔のモノラル音声の映画などに適した効果。

音場効果を切る

-設定 [切] 押す

● CDやテレビなどの2チャンネル信号はサラウンド効果がない状態になります。
● 入力信号がドルビーデジタルやDTSなどのサラウンドデジタル信号やマルチチャンネルLPCM信号のときは、信号を集約し、左右フロントスピーカーから出力します。
サラウンドスピーカーを使用しているときは、サラウンド再生（➜ 下記）になります。
● 電源の「入／切」、入力の切り換え、ヘッドホンの抜き差しをすると、音場効果を「切」にする前の状態に戻ります。

サラウンドスピーカーを使用している場合

サラウンド再生

多チャンネル信号を左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーに分配して出力します。

SFC（Sound Field Control）（➜ 左記）

■SFC（Sound Field Control）を使う

SFC [音楽] [映画] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 左記）

☞ **SFCの効果を解除する場合**
［－設定、切］を押す

ドルビープロロジックⅡ

■ドルビープロロジックⅡを使う

CDなどの2チャンネル信号をサラウンドで楽しむことができます。

[PL Ⅱ] 押す

☞ **ドルビープロロジックⅡの効果を解除する場合**
［－設定、切］を押す（➜ 上記）

お知らせ

● サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示については、5ページをご覧ください。
● 入力信号が2チャンネルの場合、[PL Ⅱ]を押すと、連動してドルビーバーチャルスピーカーが働きます。（サラウンドスピーカーを使用していない場合のみ）
● PCMのサンプリング周波数が48 kHzを超える信号には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFCやドルビープロロジックⅡは使用できません。
入力されると自動的に解除されます。その後、他の信号を再生して効果を使用するには、再び[バーチャルスピーカー]、[SFC音楽、映画]や[PL Ⅱ]を押して選んでください。
● SFCの“***GAME***”モード（➜ 左記）は、リモコンの[ゲーム]を押すことでも選べます。（➜ 18ページ）
● サラウンドスピーカー使用時は、ドルビーデジタルやDTSなどのサラウンド信号やマルチチャンネルLPCM信号には、ドルビープロロジックⅡは使用できません。
● 7.1チャンネルLPCM信号を再生すると、さらにスピーカーを追加したような、より広がりのある音場効果が楽しめます。この効果を使用しない設定もできます。（➜ 20ページ）

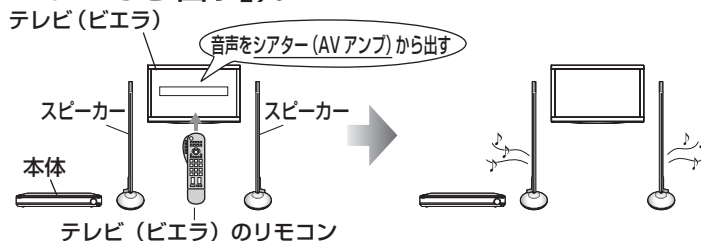
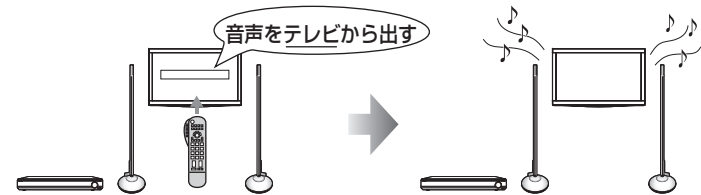
ビエラリンク（HDMI）を使う

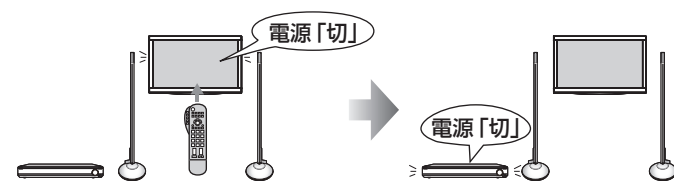
ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは
- 本システムと HDMI ケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン１つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
  ※すべての操作ができるものではありません。
- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本システムはビエラリンク（HDMI）Ver.4 に対応しています。
  ビエラリンク（HDMI）Ver.4 とは、従来の当社製ビエラリンク（HDMI）機器にも対応した当社基準です。（2010 年 2 月現在）

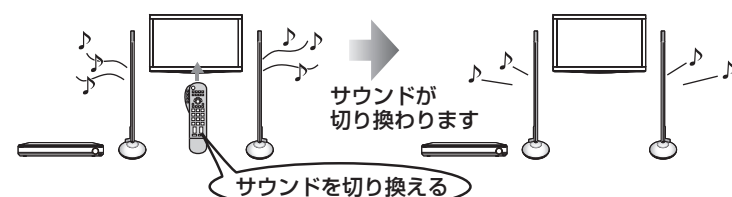
ビエラリンク（HDMI）でできること

テレビ（ビエラ）のリモコンで操作します。テレビによって、操作は異なります。

- イラストや画面は、イメージであり、実際とは異なる場合があります。
- 右ページのお知らせもご覧ください。
- 下記以外の操作をする場合は、本システムのリモコンを使用してください。
- テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

1. スピーカー切換ができます（「音声をシアター（AV アンプ）から出す」または「音声をテレビから出す」）。

本体が待機状態※のとき、音声が入力されると、自動的に電源が入り、本システムのスピーカーから音声が出力される設定になります。
※待機状態とは、本体の電源が「切」になっている状態です。

テレビ（ビエラ）のスピーカーから音声が出力される設定になります。
ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、自動的に本体の電源を切る設定ができます。
（こまめにオフ機能）
テレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。

2. テレビ（ビエラ）の電源を切ると自動的に本体の電源も切れます。

ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。

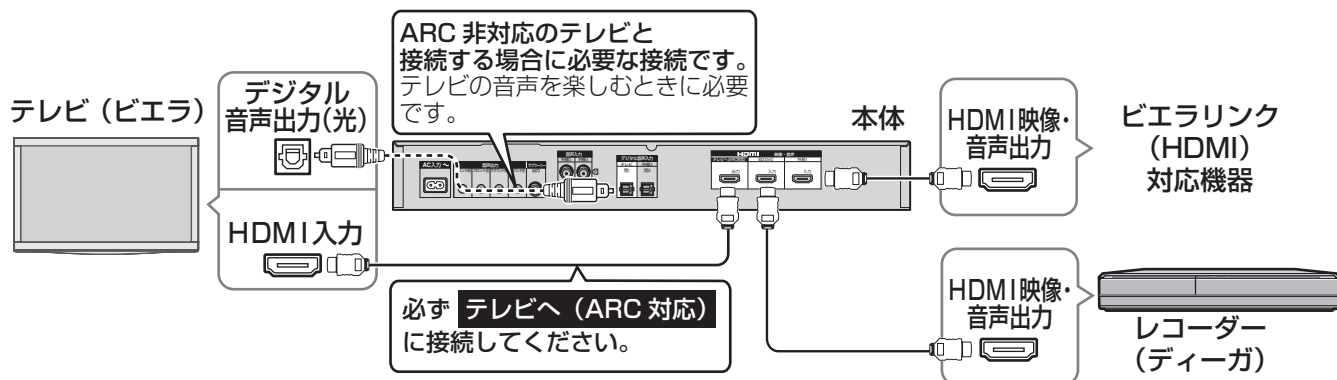
3. サウンドをお好みで切り換えることができます。
（ビエラリンク（HDMI）Ver.2 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせのみ）

- モード切り換え時、本体の表示部にサウンドモード名が表示されます。
- 入力信号が 48 kHz を超えるサンプリング周波数の PCM のときは、この機能は使えません。

さらに、番組情報などに応じて、自動的にサウンドを切り換えることができます（番組ぴったりサウンド（オートサウンド連携））。
（ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の組み合わせのみ）
- 自動でサウンドを切り換えたくない場合は、テレビのサウンドモードを“オート”以外に設定してください。
- 番組情報などを受け取り、サウンドが変更された場合は、本体の表示部にサウンドモード名が表示されます。
- すべての番組情報などには対応していません。対応していない場合には、スタンダードモードになります。

ビエラリンク（HDMI）を正しく動作させるために

本システムの電源ボタン（リモコン含む）で本体の電源を入れずに、テレビ（ビエラ）のリモコンで「音声をシアター（AV アンプ）から出す」を選択してください。（本体の電源が自動的に入ります。）テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

接続

本体とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMI ケーブルで接続します。

付属以外の HDMI ケーブルをご使用になる場合

- HDMI ロゴ（➜ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、High Speed HDMI™ ケーブルをおすすめします。
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。（HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。）
  品番 : RP-CDHS10 (1.0 m)、RP-CDHS15 (1.5 m)、RP-CDHS20 (2.0 m)、RP-CDHS30 (3.0 m) など

お知らせ

各接続機器のビエラリンク（HDMI）操作については、テレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。

設定

準備 : 本システムの「ビエラリンク（HDMI）設定」（➜ 21 ページ）で“***ON***”になっているかを確認してください。
テレビ（ビエラ）のメニュー操作でビエラリンク（HDMI）機能を働かせる設定にしてください。
テレビ（ビエラ）の音声をサラウンドで楽しむときは、テレビ（ビエラ）のデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

1. **テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れる。**
2. **テレビ（ビエラ）の電源を入れる。**
3. **テレビ（ビエラ）の入力を、本体を接続した HDMI 端子に切り換える。**
4. **本システムの入力を“*BD/DVD*”や“*AUX 1*”に切り換えて、レコーダー（ディーガ）の画像が正しく映るかを確認する。**

お知らせ

この設定は以下のような場合に行ってください。
- お買い上げの直後、初めて本体を接続したとき
- 機器を追加、または接続し直したとき
- 「本体の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）」（➜ 20 ページ）と「ビエラリンク（HDMI）設定」（➜ 21 ページ）を変更したとき

この機能を使わない設定にする

「ビエラリンク（HDMI）設定」（➜ 21 ページ）で“***OFF***”を選んでください。

お知らせ

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本体の電源を「入」にすると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアター（AV アンプ）から出す」設定になります。（➜ 左ページ）ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以前の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本体の電源を「入」にすると、“***TV SPEAKER***”が表示され、テレビ（ビエラ）から音声が出力されます。
- ビエラリンク（HDMI）対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本体の電源を「切」にするとテレビ（ビエラ）が「音声をテレビから出す」設定になります。（➜ 左ページ）
- 番組ぴったりサウンド（➜ 左ページ）は、以下のような場合に働きます。
  - ●テレビ（ビエラ）で : デジタル放送の番組を視聴中
  - ●レコーダー（ディーガ）で :
    デジタル放送の番組を視聴中、または再生中
    DVD、CD、SD などを再生中
    - 録画したディスクによっては、対応していない場合があります。
    - 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
    - 詳しくは、レコーダー（ディーガ）の取扱説明書をご覧ください。
- テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“***TV***”に切り換わります。
- BD/DVD 入力端子や外部 1 入力端子に接続したレコーダー（ディーガ）などを再生すると、本システムの入力が自動で“***BD/DVD***”や“***AUX 1***”に切り換わります。

便利な機能・設定

ウィスパーモードサラウンドを使用する

サラウンド再生時のみ効果がある機能です。サラウンド再生時に、小音量にしても臨場感のある効果が楽しめます。

[ウィスパーモードサラウンド] を押して“*W.S. ON*”を選ぶ

- 初めに現在の設定が表示されます。
  押すたびに“***W.S. OFF***”と“***W.S. ON***”が切り換わります。

■ **解除する**　[ウィスパーモードサラウンド] を押して“***W.S. OFF***”を選ぶ

お知らせ

- ウィスパーモードサラウンドは、下記の場合には効果がありません。
  サラウンドスピーカーを使用していない場合：
  ドルビーバーチャルスピーカーが「切」のとき
  サラウンドスピーカーを使用している場合（➔ 12、13 ページ）：
  2 チャンネル信号入力でドルビープロロジックⅡ、SFC が「切」のとき
- この機能が「入」の場合に上記の設定にしたときは、一時的に機能が「切」の状態になります。

ゲームサウンドを使用する

迫力のあるサウンドでゲームが楽しめます。

[ゲーム] を押す

● SFC の“***GAME***”モード（➔ 15 ページ）が選択されます。

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、SFC の効果自体も解除されます。

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“***MUTE***”と点滅表示されます。

[消音] を押す

■ **解除する**　もう一度押す

お知らせ

- 本体の電源を切ると解除されます。
- 音量を調整すると解除されます。

設定動作中（➔ 19 ページ）に
ひとつ前に戻る / キャンセルする：
[戻る] を押す

再生中に低音（ウーハー部）の音量を調整する

低音の音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じる場合は、再生中でも低音の調整ができます。

1. [CH] を押して“*WFR*”を選ぶ

（スピーカーは、押すごとに切り換わります。）
WFR（ウーハー）→ ***RS***（サラウンド右）（使用時のみ）→ ***LS***（サラウンド左）（使用時のみ）

2. [スピーカーレベル +、－] を押して、低音の音量を調整する

調整範囲：***MIN***、***1*** ～ ***15***、***MAX***

再生中にサラウンドスピーカーの音量を調整する

サラウンドスピーカーを使用している場合（➔ 12、13 ページ）は、サラウンドスピーカーの調整もできます。

1. [CH] を押して“*RS*”または“*LS*”を選ぶ

（スピーカーは、押すごとに切り換わります。）
WFR（ウーハー）→ ***RS***（サラウンド右）→ ***LS***（サラウンド左）

2. [スピーカーレベル +、－] を押して、各スピーカーの音量を調整する

調整範囲：－ ***10*** ～＋ ***10***

■ **手順 1 と 2 を繰り返し、各スピーカーを調整する**

お知らせ

- フロントスピーカーは、この操作では調整できません。左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「フロントスピーカーの音量バランスを調整する」（➔ 右ページ）をご覧ください。
- 入力信号によっては、音がひずむ場合があります。その場合はレベルを下げてください。
- 音場効果を切って音声が出力されない設定にしたスピーカー（➔ 15 ページ）では、レベル調整はできません。
- この調整で設定した各スピーカーの音量レベルは、SFC では各モードごとに記憶されます。（➔ 15 ページ）
- 本体後面のサブウーハー出力端子に市販のアクティブサブウーハーを接続している場合（➔ 10 ページ）には、本体と同期して音量が調整されます。

テスト信号でサラウンドスピーカーの音量をお好みに合わせて調整する

サラウンドスピーカーを使用している場合に設定できます。
(➔ 12、13 ページ)
サラウンドスピーカーの音量をテスト信号を出力して調整することができます。

1. [テスト] を押して、テスト信号を出力させる

スピーカー表示
L：フロント左、***R***：フロント右、
RS：サラウンド右、***LS***：サラウンド左

- 約２秒間隔で下記の順に表示され、テスト信号が出力されます。

TEST L → TEST R → TEST RS → TEST LS

2. [音量 +、−] を押して、フロントスピーカーを通常聞く音量にする

調整範囲：***0***（最小）〜 ***50***（最大）

3. [CH] を押して、調整したいスピーカーを選ぶ

4. [スピーカーレベル +、−] を押して、各スピーカーの音量を調整する

調整範囲：***RS***、***LS***：***−10*** 〜 ***+10***

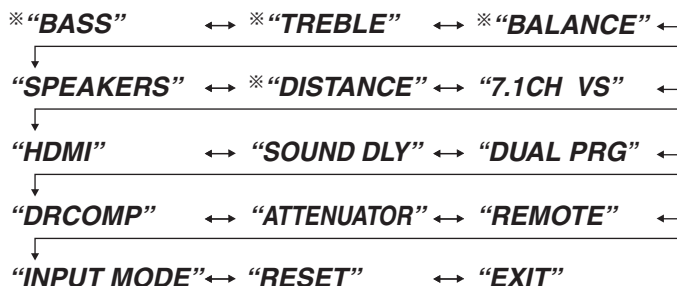
- 調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
- 操作後、約２秒経つと、再び順に出力されます。

■ 手順３と４を繰り返し、各スピーカーを調整する

5. [テスト] を押して、テスト信号を止める

お知らせ

- フロントスピーカーについては、テスト信号を出力して調整できません。音声出力の確認のみになります。(サラウンドスピーカーを使用していない場合は“***TEST L***”“***TEST R***”のみが表示され、テスト信号が交互に出力されます。)
- 左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「フロントスピーカーの音量バランスを調整する」(➔ 右記) をご覧ください。
- この調整で各チャンネルのレベルを調整しても、SFC の各モードの各チャンネルのレベル設定は変化しません。
- この調整をすると、ドルビーバーチャルスピーカーが働きます。２チャンネル信号を再生している場合は、連動してドルビープロロジックⅡも働きます。(➔ 15 ページ)
- 低音の音量レベルについては、テスト信号を出力させずに調整してください。(➔ 左ページ)

■ 設定項目

- ※は調整が有効な場合のみ表示されます。
- “***EXIT***”を選んで [決定] を押すと、設定モードを終了します。

音質の調整をする

BASS（低音）と TREBLE（高音）の音質を調整できます。
アナログ、PCM の２チャンネル信号をステレオ再生するとき（ドルビーバーチャルスピーカーとドルビープロロジックⅡが「切」のとき）のみ有効です。
それ以外の条件では、この設定は表示されません。必ず、上記の条件にしてから、設定してください。

1. [ー設定、切] を約２秒間押したままにする

設定項目が表示されます。(➔ 上記)

2. [◀] [▶] を押して“***BASS***”または“***TREBLE***”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す

調整範囲：***−6*** 〜 ***+6***
初期設定：***0***

4. [戻る] を数回押して“***EXIT***”を選び、[決定] を押して設定を終える

フロントスピーカーの音量バランスを調整する

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1. [ー設定、切] を約２秒間押したままにする

設定項目が表示されます。(➔ 上記)

2. [◀] [▶] を押して“***BALANCE***”を選び、[決定] を押す

3. [◀] [▶] を押して調整し、[決定] を押す

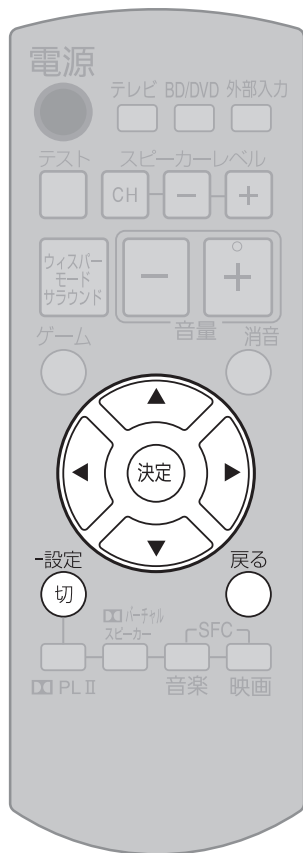
L：フロントスピーカー（左）
R：フロントスピーカー（右）

表示部のバーを左右に動かすことで調整できます。

- “***L***”に近づくにつれて、左フロントに音が寄ります。
- “***R***”に近づくにつれて、右フロントに音が寄ります。

4. [戻る] を数回押して“***EXIT***”を選び、[決定] を押して設定を終える

お知らせ

- バーの表示は目安です。
- ヘッドホンを使用しているときは、音量バランスの調整はできません。

設定動作中に
ひとつ前に戻る / キャンセルする：
[戻る] を押す

距離の設定をする

サラウンドスピーカーを使用している場合に設定できます。（➜ 12、13 ページ）
それ以外の場合は、この設定は表示されません。
フロント / サラウンドスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*DISTANCE*”を選び、[決定] を押す

3. [◀] [▶] を押して設定するスピーカーを選び、[決定] を押す

FRONT：フロントスピーカー
SURR：サラウンドスピーカー

4. [▲] [▼] を押して距離を選び、[決定] を押す

設定値　：***1.0*** ～ ***10.0*** m
初期設定：**フロント** ***3.0*** m
　　　　　サラウンド ***1.5*** m

5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

お知らせ

本システムの電波が届く範囲は、同一部屋内で最大 15 m です。

7.1 チャンネルバーチャルサラウンド設定をする

7.1 チャンネル LPCM 信号を再生すると、さらにスピーカーを追加したような、より広がりのある音場効果が楽しめます。購入時はこの設定は“***AUTO***”になっています。
7.1 チャンネルバーチャルサラウンド効果を使用したくない場合は、この設定で“***OFF***”を選んでください。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*7.1CH VS*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して“*OFF*”を選び、[決定] を押す

AUTO：入力信号に応じて設定が「入／切」します。
7.1 チャンネル LPCM 信号入力時にのみ 7.1 チャンネルバーチャルサラウンドは「入」の状態（その他の信号入力時は「切」の状態）
OFF：常に 7.1 チャンネルバーチャルサラウンドは「切」の状態
初期設定：***AUTO***

4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

本体の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

このモードでは HDMI 接続をしている場合、スタンバイスルー機能（➜ 8、30 ページ）は働きません。
電源「切」時のビエラリンク（HDMI）（➜ 16、17 ページ）は無効になります。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*HDMI*”を選び、[決定] を押す

3. [◀] [▶] を押して“*STNBY*”を選び、[決定] を押す

4. [▲] [▼] を押して“*OFF*”を選び、[決定] を押す

OFF：電源「切」時の消費電力を下げる（約 0.2 W）
ON：電源「切」時に「スタンバイスルー」を有効にする（通常の消費電力）
初期設定：***ON***

5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

ビエラリンク（HDMI）設定

ビエラリンク（HDMI）（➜ 16、17 ページ）を使用したくない場合に、“*OFF*”にすることで連動しない設定にできます。購入時は“*ON*”（連動するとき）に設定されています。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2. [◀] [▶] を押して“*HDMI*”を選び、[決定] を押す
3. [◀] [▶] を押して“*CTRL*”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して“*ON*”または“*OFF*”を選び、[決定] を押す
   ON：連動するとき
   OFF：連動しないとき
   初期設定：***ON***
5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

○○お知らせ○○

“*CTRL OFF*”に設定すると ARC の機能が働かなくなります。必ず光デジタルケーブルを接続してください。（➜ 8 ページ）

音声を遅らせて映像とのズレを補正する

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を遅らせて、映像に近づけます。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2. [◀] [▶] を押して“*SOUND DLY*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して設定を選び、[決定] を押す
   AUTO、***OFF***、***10***、***20***、***30***、***40***、***60***、***80***、***100***、***120***、***140***、***160***、***180***、***200***
   初期設定：***AUTO***
4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

○○お知らせ○○

- 音声を遅らせる必要がない場合は、“*OFF*”を選んでください。
- “*AUTO*”はビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ(ビエラ)を接続している場合のみ有効です。(オートリップシンク)
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社製以外のテレビを接続している場合で“*AUTO*”にしているときは、“*40*”(msec) として設定されます。

二重音声を切り換える

AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声を切り換えることができます。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2. [◀] [▶] を押して“*DUAL PRG*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して音声を選び、[決定] を押す
   MAIN：主音声
   SUB：副音声
   M+S：主＋副音声
   初期設定：***MAIN***
4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

小音量でも聞きやすくする

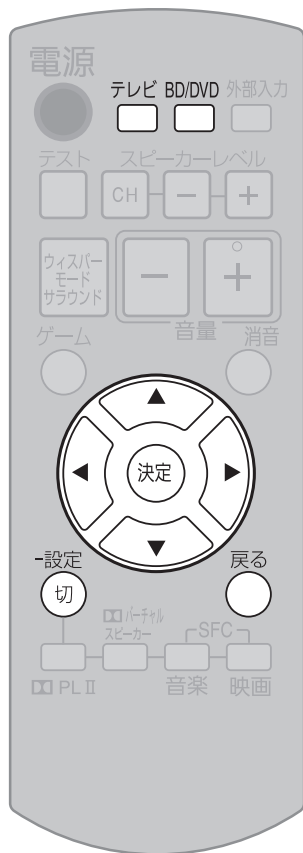
ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2. [◀] [▶] を押して“*DRCOMP*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して設定を選び、[決定] を押す
   OFF：通常の再生
   STANDARD：音源に合わせた最適な再生
   MAX：常に最大圧縮
   初期設定：***OFF***
4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

アッテネーターを切り換える

アナログ入力で再生中、音が大きなときにひずんだように聞こえる場合は“*ON*”にしてください。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2. [◀] [▶] を押して“*ATTENUATOR*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*ON*”を選び、[決定] を押す
   ON：入
   OFF：切
   初期設定：***OFF***
4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

便利な機能・設定（つづき）

入力信号の判別方法を切り換える

“***AUTO***”（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、以下のような場合には、入力信号の判別方法を切り換えてください。
- CD を再生して､曲の始まりが途切れる場合は､“***PCM***”（PCM FIX)に設定してください。
- DTS 信号を再生しても、信号が判別されない場合は、“***DTS***”（DTS FIX）に設定してください。
- ノイズが発生する場合は、“***AUTO***”に戻してください。

設定動作中に
ひとつ前に戻る／キャンセルする：
[戻る] を押す

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*INPUT MODE*”を選び、[決定] を押す

3. [◀] [▶] を押して入力を選び、[決定] を押す
入力：***TV***、***DVD***、***AUX1***、***AUX2***

4. [▲] [▼] を押して入力信号の判別方法を選び、[決定] を押す
AUTO：自動判別　***PCM***：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定
DTS：DTS のデジタルに固定
初期設定：***AUTO***

■ **手順 3 と 4 を繰り返し、設定を変更**

5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

購入時の設定に戻す（リセット）

本体の設定を購入時の状態に戻します。

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*RESET*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す
YES：リセットする　***NO***：リセットしない
- 中止するには“***NO***”を選ぶ

◯◯(お知らせ)◯◯
- “***YES***”を選ぶと､すべての設定がリセットされ､自動的に入力が“***BD/DVD***”になります。
- “***NO***”を選ぶと、手順 2 に戻ります。設定モードを終了させるには、［戻る］を数回押して“***EXIT***”を表示させ、［決定］を押してください。
- スピーカーの設定内容はリセットされません。ただし、「スピーカーの設置数を 4 本に変更する」（➜ 13 ページ）で設定した内容については、リセットされます。

本システムのリモコン操作で他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合

本システムのリモコンを使用すると他の機器が動作することがあります。その場合は、本システムのリモコンコードを“***REMOTE 1***”に切り換えてください。下記のリモコン操作で、本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します。

本体側を設定する

1. [ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶］を押して“*REMOTE*”を選び、［決定］を押す

3. [▲] [▼］を押して“*1*”を選び、［決定］を押す
初期設定：***2***
- リモコン側の設定を変更するまでは、設定モードを終了することはできません。そのまま、手順 4 に進んでください。
- リモコンコードを 2 にする場合は、手順 3 で“***2***”を選んで［決定］を押してください。

リモコン側を設定する

4. [決定］を押したまま［テレビ］を押す（2 秒以上）
[テレビ］：リモコンコード 1 にする場合
[BD/DVD］：リモコンコード 2 にする場合 (初期設定)
- 手順 3 で選んだコード番号と同じ番号を選んでください。
- リモコンコードを 2 にする場合は、手順 4 で［決定］を押したまま [BD/DVD] を 2 秒以上押してください。

5. [戻る］を数回押して、“*EXIT*”を選び、［決定］を押して設定を終える

◯◯(お知らせ)◯◯
本体側とリモコン側で違うコードが設定されている場合には、“***U30 REM2***”または“***U30 REM1***”のエラー表示が出ます。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	10
	スピーカー設定中 “*2CH SEARCH*” や “*4CH SEARCH*” が表示されたまま消えない。	● スピーカーの電源が入っているかを確認してください。 ⇒ 電源が入っているのに表示が消えない場合は販売店にご相談ください。	11、13
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力機器を正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。光デジタルケーブルで接続した場合、サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号は、正常に再生されません。 ● 機器が正しく接続されているか確認してください。 ●（テレビ音声が聞こえない場合）ARC 非対応のテレビとの接続には光デジタルケーブルが必要です。詳しくは接続するテレビの取扱説明書をご覧ください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で “***AUTO***” に設定してください。 ● 本体の電源を「切 / 入」してください。 ● スピーカーの電源が入っているか確認してください。 ● スピーカーの設定が正しくされているか確認してください。 ● スピーカーの調整を行ってください。 ● 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。	14 18 24 8～10 8 22 − 11、13 12 18、19 −
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。 ● リモコンコードが正しく設定されているか確認してください。	6 22
	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本体をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。外部 3 入力または外部 4 入力にアナログ接続してください。	9、10
	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確かめてください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で “***DTS***” に設定してください。	− 22
	DVD オーディオを再生しても音が出ない。	● 光デジタルケーブルで接続した場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	−
	“*F70* □□□□” が表示される。 （□ には “***DSP***” または “***HDMI***” が表示されます。）	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	−
	“***F76***” が表示される。 （表示したあと、電源が切れます。）	● 電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	−
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ を選択してください。	15
	ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ が使えない。	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは使用できません。外部 3 入力または外部 4 入力にアナログ接続してください。 ● デジタル放送の AAC 信号とドルビーデジタルの二重音声には使用できません。	9、10 −
	デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● テレビ / レコーダーの音声出力からビットストリーム /Bitstream（AAC）が出力される設定にしてください。	−
	テレビの音声が音切れする。	● 音切れする場合、テレビ側の音声出力の設定を AAC にしてください。	−
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ①ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーなどのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力信号の判別方法を切り換える」で “***PCM***” に設定してください。	− 22
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	8
	設置時はテレビ（ビエラ）が映っていたのに、映らなくなった。	● 本システムとテレビ（ビエラ）のみの組み合わせでご使用の場合、本体の “BD/DVD 入力” や “外部 1 入力” に HDMI ケーブルが接続されていないか確認してください。“BD/DVD 入力” や “外部 1 入力” に接続されている場合は、“テレビへ（ARC 対応）” に接続し直してください。	−
	地上デジタル /BS 放送の番組で始めの数秒間の音声が再生されない。	● テレビのサウンドを “オート” から “スタンダード” に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。	−
	7.1 チャンネル LPCM 信号を再生したとき、始めの数秒間の音声が再生されない	● ブルーレイディスクの 7.1 チャンネル LPCM 信号で始めの数秒間の音声が途切れることがあります。レコーダーやプレーヤーのリモコンで［⏮ スキップ］を押して始めから再生し直してください。	−

故障かな！？（つづき）

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
HDMI	ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。	●「ビエラリンク(HDMI)設定」で“***ON***”（連動するとき）に設定しているか確認してください。“***OFF***”になっている場合は、“***ON***”に変更してください。 ● 省待機電力モードにしている場合、本体の電源「切」時には、ビエラリンク（HDMI）が働きません。「本体の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）」で“***ON***”（通常の消費電力）に変更してください。 ● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 ● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ・HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ・テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ・テレビ（ビエラ）と本体を HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本体の電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	21 20 — —
	DVD やブルーレイディスクなどマルチチャンネルの音声が入ったソースを再生しても“DD DIGITAL”や“DTS”の表示が出ない。	● ビエラリンク (HDMI) を使用している場合でスピーカー切換が「音声をテレビから出す」になっているときは、テレビ（ビエラ）のリモコンのビエラリンクボタンを押し、スピーカー切換を「音声をシアター（AV アンプ）から出す」にしてください。	16、17
スピーカー	スピーカーの［ワイヤレスリンク］インジケーターが緑にならない。 音がとぎれる。	●［ワイヤレスリンク］インジケーターが消灯している場合は、スピーカーの電源コードの接続や電源が「入」になっていることを確認してください。 ●［ワイヤレスリンク］インジケーターが赤から緑に変わらない場合は、本体とスピーカーのリンクができていません。本体の電源が「入」になっていることを確認してください。またはスピーカーの設定をやり直してください。 ● 本システムの近くでワイヤレスヘッドホンを使用したり、無線 LAN が動作したりしていませんか。このようなときは、本システムの位置を少し動かすと改善される場合があります。	10、11、13 11、13 —
	音が出なくなった。 （インジケーターが赤と緑に交互に点滅する。） 本システムは異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● アンプの出力異常です。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。 （保護回路の動作が解除されます。） （それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	— — —

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、ベース部が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、カーテンなどの布でおおわれないように設置してください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 8 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	別売のサラウンドスピーカー（SB-ZT2）を使用して、より本格的なサラウンド再生が楽しめます。（➜ 12、13 ページ）
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

本システムで再生できるデジタル信号

■ AAC
BS 放送など
■ ドルビーデジタル
ブルーレイディスクや DVD など
■ DTS
ブルーレイディスクや DVD など
■ PCM(2チャンネル)
CD や DVD オーディオなど
■ マルチチャンネル LPCM(リニア PCM)
ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

お知らせ

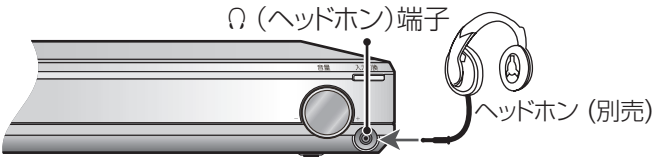
● HDMI 接続している場合、サンプリング周波数が 48 kHz までのマルチチャンネル LPCM 信号と 96 kHz までの PCM 信号のほか、48 kHz を超えるマルチチャンネル LPCM 信号や 96 kHz を超える PCM 信号も再生することができます。（これらの周波数を超える場合は、いずれも再生機器側でダウンサンプリングして 48 kHz として再生されます。ただし、ディスクによっては再生できないものもあります。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。）
● 光デジタルケーブル接続している場合、サンプリング周波数が 48 kHz までのマルチチャンネル LPCM 信号と 96 kHz までの PCM 信号を再生することができます。
● 各信号について詳しくは「用語解説」(➜ 30、31 ページ)をご覧ください。

■ 本システムは 3D や x.v.Color（➜ 31 ページ）、Deep Color（➜ 30 ページ）に対応しています。

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
CANCEL MUTE FUNCTION（スクロール表示）	● 消音中にテスト信号は出力されません。消音を解除してから操作してください。	18
MUTE（点滅）	● 消音中に常に表示されます。	18
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE（スクロール表示）	● 二重音声には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	–
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE（スクロール表示）	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	15
NOT POSSIBLE WHEN USING HEADPHONES（スクロール表示）	● ヘッドホンを挿入しているときは、音場効果を使用することはできません。	25
SWITCH OFF POWER（スクロール表示）	●“*F70* □□□□”が表示されているときは、電源以外の操作はできません。電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
TURN OFF DTS FIX MODE（スクロール表示）	● 各入力を DTS に固定（DTS FIX）しているときは、[－設定、切] を押して音場効果を切ることはできません。DTS 固定を解除してください。	22
U30 REM2 *U30 REM1*	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。“*U30 REM2*”が表示された場合、「本システムのリモコン操作で他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合」の手順 **4** でリモコン側の設定を“**2**”にしてください。“*U30 REM1*”が表示された場合も、同じように手順 **4** でリモコン側の設定を“**1**”にしてください。	22
U701	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	–
U703	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 －接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 －HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 －本体出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	–
U704	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	–

ヘッドホンで楽しむ

音量をできるだけ下げた状態で接続してください。
●プラグタイプ：φ 3.5 mm ステレオミニプラグ

お知らせ

●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
●多チャンネル信号は強制的に 2 チャンネルに集約して出力します。（2CH MIX）
ただし、DVD オーディオについては、フロント L、R の信号が出力されます。

仕様

本体

■ プリアンプ部

入力感度 / 入力インピーダンス
　外部 3、外部 4　600 mVrms/47 kΩ
信号対雑音比（SN 比）
　BD/DVD、テレビ、外部 1、外部 2　80 dB
トーンコントロール特性
　低音　± 6 dB（50 Hz、JEITA）
　高音　± 6 dB（20 kHz、JEITA）
入出力端子

項目	数
音声入力	
外部 3、外部 4	2
デジタル音声入力	
光 1、2（テレビ、外部 2）	2
音声出力	
フロント左／右、サラウンド左／右	4
サブウーハー出力	1
ヘッドホン出力	1
適合ヘッドホンインピーダンス	16 ～ 64 Ω
映像・音声	
HDMI 入力（BD/DVD、外部 1）	2
HDMI 出力（TV へ（ARC 対応））	1

本システムは、ビエラリンク Ver.4 に対応しています。

■ 本体総合

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力　11 W

電源待機時	約 0.5 W
省待機電力モード時	約 0.2 W

寸法（幅×高さ×奥行）　430 mm × 59 mm × 262 mm
質量　約 2 kg
動作温度　0 ℃～ 40 ℃
動作湿度　20 %～ 80 %（結露のないこと）

■ ワイヤレス部

使用周波数帯　2.4000 ～ 2.4835 GHz
使用チャンネル数　3
電波干渉距離　10 m以下
飛距離　約 15 m※1
※1 同一部屋内で、本体とスピーカー間に障害物が無く、本体を高さ 50 cm 以上の位置に設置した場合

スピーカー

■ パワーアンプ部※2

実用最大出力（各 ch 動作時）（非同期駆動、JEITA）
　低域側（ウーハー部）　60 W（100 Hz、3 Ω）
　高域側（ミッドハイ部）　20 W（1 kHz、8 Ω）

■ 実用最大出力合計値※3（非同期駆動、JEITA）
　160 W（80 W+80 W）

■ スピーカー部※2

2way 5スピーカーシステム（バスレフ型）
　ウーハー部　12 cm コーン型× 1
　ミッドハイ部　2.4 × 10 cm 平面型× 4

■ スピーカー総合※2

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力　35 W

ワイヤレスリンクスタンバイ時（平均値）	約0.8 W
電源待機時	約 0.08 W

寸法（幅×高さ×奥行）　290 mm × 1231 mm × 290 mm
質量　約 3.9 kg
動作温度　0 ℃～ 40 ℃
動作湿度　20 %～ 80 %（結露のないこと）
※2 スピーカー 1 本あたり
※3 スピーカー 2 本使用

注）この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・使いかた・お手入れ などは

■ まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電　話　（　　　）　－

お買い上げ日　　　　年　　月　　日

修理を依頼されるときは

「故障かな !?」（➜ 23、24 ページ）、「こんな表示が出たら」（➜ 25 ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名　ホームシアターオーディオシステム

●品　番　SC-ZT2

●故障の状況　できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

技術料　診断・修理・調整・点検などの費用

部品代　部品および補助材料代

出張料　技術者を派遣する費用

※ **補修用性能部品の保有期間 8 年**

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

■ 転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください

※「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。

http://panasonic.jp/support/

●修理に関するご相談は……………………

パナソニック 修理ご相談窓口

電 話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK 0120-878-554

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地の「修理ご相談窓口」におかけください。

●使いかた・お手入れなどのご相談は……

パナソニック お客様ご相談センター 365日 受付9時〜20時

電 話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK 0120-878-365

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

■上記番号がご利用いただけない場合　06-6907-1187

■FAX　フリーダイヤル　0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787

Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

※ ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

【ご相談におけるお客様に関する情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびパナソニックグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報をパナソニック製品に関するご相談対応や修理サービスなどに利用させていただきます。併せて、お問い合わせ内容を正確に把握するため、ご相談内容を録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいておりますので、ご了承願います。当社は、お客様の個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に個人情報を開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■各地域の修理ご相談窓口 ※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

地区	窓口	電話番号	所在地
北海道地区	札　幌	☎ (011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
	旭　川	☎ (0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
	帯　広	☎ (0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
	函　館	☎ (0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）
東北地区	青　森	☎ (017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
	秋　田	☎ (018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
	岩　手	☎ (019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
	宮　城	☎ (022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
	山　形	☎ (023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
	福　島	☎ (024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区	栃　木	☎ (028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
	群　馬	☎ (027)254-2075	前橋市箱田町325-1
	茨　城	☎ (029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
	埼　玉	☎ (048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
	千　葉	☎ (043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
	東　京	☎ (03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
	山　梨	☎ (055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
	神奈川	☎ (045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
	新　潟	☎ (025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区	石　川	☎ (076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
	富　山	☎ (076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
	福　井	☎ (0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
	長　野	☎ (0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
	静　岡	☎ (054)287-9000	静岡市葵区千代田7丁目7-5
	愛　知	☎ (052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
	岐　阜	☎ (058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
	高　山	☎ (0577)33-0613	高山市花岡町3丁目82
	三　重	☎ (059)254-5520	津市久居野村町字山神421
近畿地区	滋　賀	☎ (077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
	京　都	☎ (075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
	大　阪	☎ (06)6359-6225	大阪市城東区関目2丁目15-5
	奈　良	☎ (0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
	和歌山	☎ (073)475-2984	和歌山市中島499-1
	兵　庫	☎ (078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4
中国地区	鳥　取	☎ (0857)26-9695	鳥取市安長295-1
	米　子	☎ (0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
	松　江	☎ (0852)23-1128	松江市平成町182番地14
	出　雲	☎ (0853)21-3133	出雲市渡橋町416
	浜　田	☎ (0855)22-6629	浜田市下府町327-93
	岡　山	☎ (086)242-6236	岡山市北区田中138-110
	広　島	☎ (082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
	山　口	☎ (083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区	香　川	☎ (087)868-6388	高松市勅使町152-2
	徳　島	☎ (088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
	高　知	☎ (088)834-3142	高知市仲田町2-16
	愛　媛	☎ (089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区	福　岡	☎ (092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
	佐　賀	☎ (0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
	長　崎	☎ (095)830-1658	長崎市東町1919-1
	大　分	☎ (097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
	宮　崎	☎ (0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
	熊　本	☎ (096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
	天　草	☎ (0969)22-3125	天草市港町18-11
	鹿児島	☎ (099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
	大　島	☎ (0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区	沖　縄	☎ (098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html

1109

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

電源プラグを抜く

異常があったときには、電源プラグを抜く

- **煙が出たり、異常なにおいや音がする**
- **音声が出ないことがある**
- **内部に水や異物が入った**
- **電源プラグが異常に熱い**
- **本体に変形や破損した部分がある**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

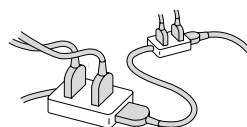
- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

病院内や医療用電気機器のある場所で本機を使用しない

本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。

⚠ 警告

心臓ペースメーカーを装着している方は装着部から22 cm以内で本機を使用しない

本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで本機を使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力が大きく損なわれる原因になります。

電池の液がもれたときは、素手でさわらない

- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

付属の小物部品（スペーサー等）は、乳幼児の手の届くところに置かない

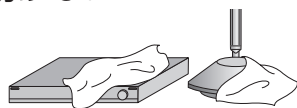
誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

電池は誤った使いかたをしない

- **指定以外の電池を使わない**
- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない**
- **⊕と⊖を針金などで接続しない**
- **金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない**
- **⊕と⊖を逆に入れない**
- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない**
- **被覆のはがれた電池は使わない**

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。
- 電池には安全のため被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

⚠ 注意

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

ヘッドホン接続前に、音量を下げる

音量を上げ過ぎた状態で接続すると、突然大きな音が出て耳を傷める原因になることがあります。
- 音量は少しずつ上げてご使用ください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

片手でスピーカーを持たない

誤ってすべり落として、けがの原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

本体の上に重いものを載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

ベース部底面に床がたつき防止のためのスペーサーをはるときは、周りに人がいないことを確認してから行う

人がつまずいたり、踏み込んでスピーカーが壊れ、けがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注意

ベース部側面の開口部に手や足を入れない

誤ってスピーカーの転倒によるけがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

足や掃除機などで不用意にスピーカーの電源を入れない

部品の損傷や通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより火災の原因になることがあります。

遊びに使用しない

- **よじ登らない**
- **振り回したり、目を突く行為をしない**
- **電源コードを引っ掛けない**

転倒などによるけがの原因になることがあります。
- 輪投げなどの遊びや帽子、衣類を掛けないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

用語解説

ウィスパーモードサラウンド
小音時でも通常音量時と同じような臨場感のあるサラウンド再生が楽しめる機能です。夜などの視聴時に便利です。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドチャンネルで構成された音声信号です。本システムでは、サラウンド信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーで再生します。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

スタンバイスルー機能
本体とテレビ、レコーダーを HDMI ケーブルで接続すると、本システムの電源ボタンで電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本体を通過して、テレビへ伝送される機能です。深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。x.v. Color や Deep Color、3D で記録された映像にも対応しています。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンサンプリング
ある周波数でサンプリングされた信号をより低い周波数で再サンプリングすることです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

番組ぴったりサウンド
本システムにビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応のテレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を組み合わせると、番組情報に合わせて自動でサウンドを切り換えることができます。

光（OPTICAL（オプティカル））デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に光（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

マルチチャンネル LPCM（エルピーシーエム）（リニア PCM（ピーシーエム））
圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。ブルーレイディスクや DVD オーディオなどでは、マルチチャンネルの LPCM が使われており、より高音質な再生が可能です。本システムでは、7.1 チャンネルまでの LPCM を入力することができます。

AAC 信号
BS デジタル放送や地上波デジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

ARC（Audio Return Channel（オーディオ リターン チャンネル））
HDMI Ver.1.4 で新たに追加された機能です。
テレビなどの HDMI 入力端子から本システムの HDMI 出力端子にデジタル音声信号を送ります。

CPPM
Content Protection for Prerecorded Media（コンテント プロテクション フォー プリレコーディッド メディア）の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

Deep Color（ディープ カラー）
対応するテレビやレコーダーなどに接続することで、より幅の広いカラーグラデーション（4096 段階）を再生することができます。滑らかで複雑なグラデーションを表現し、縞模様状に見える色の変化を最小限に抑えた、抜群に深みのある、自然に近い色をお楽しみいただけます。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）
ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ（2 チャンネル）はもちろん、サラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

Dolby Pro Logic Ⅱ（ドルビー プロ ロジック）
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆる信号を、よりリアルな音場で 5.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2 チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。本システムでは、ビデオや CD などのステレオ信号にサラウンド効果をつけるときに使用されます。

Dolby Virtual Speaker（ドルビー バーチャル スピーカー）
フロントスピーカーだけで、サラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 チャンネルにおける理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

DTS（Digital Theater Systems（ディーティーエス デジタル シアター システム））
映画館で多く採用されているサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションが良く、リアルな音響効果が得られます。

HDMI
HDMI は High-Definition Multimedia Interface（ハイ デフィニション マルチメディア インターフェイス）の略です。
１本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

PCM（Pulse Code Modulation）
アナログ音声を圧縮せずにデジタル音声に変換する方式の１つです。音楽CDなどで使われている方式です。

x.v.Color
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。本システムは、x.v.Colorに対応しています。

1080p
デジタルハイビジョン映像の１つです。
実際の画面を構成する有効走査線数は1080本で、細部まできれいに表現されます。また、上から順に走査するプログレッシブ方式で、ちらつきの少ない画像になります。本システムは、1080pに対応しています。

5.1チャンネル サラウンド
「モノラル」は１つのスピーカーで、「ステレオ」は２つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1チャンネルサラウンドでは５つのスピーカーと１つのサブウーハーが使われます。視聴位置前方に設置するセンタースピーカー１つ、フロントスピーカー２つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー２つで５チャンネル、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため0.1とし、すべてを使って再生することを5.1チャンネルサラウンド再生と言います。
本システムでは、ドルビーバーチャルスピーカーで、5.1チャンネルで聞いているような音響効果を楽しむことができます。

7.1チャンネル バーチャルサラウンド
7.1チャンネルLPCM信号を再生すると、さらにスピーカーを追加したような音場効果が楽しめる機能です。

さくいん

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

パナソニックの会員サイト「CLUB Panasonic」で **「ご愛用者登録」** をしてください

弊社ではより良い商品とサービスをお客様にご提供できるようにパナソニック商品をご購入の方にご愛用者登録をお願いしています。ぜひ、この機会にご愛用者登録をお願いいたします。

※皆様の貴重なご意見を、製品の開発や改善の参考とさせていただきたいと思いますので、アンケートにもご協力いただきますようお願い申し上げます。

特典１	**家電情報をまとめて登録／管理** 購入年月や製造番号などをMy家電リストに保存できます。
特典２	**商品情報をスムーズに入手** Q&Aや取扱説明書など、商品に関する情報が見られます。
特典３	**エンジョイポイントがたまる** たまったポイントでプレゼントに応募できます。

登録はこちらから PC http://club.panasonic.jp/ 携帯 http://mobile.club.panasonic.jp/

※このサービスはWEB限定のサービスです。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

—このマークがある場合は—

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検

長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！

こんな症状はありませんか		ご使用中止	
	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音声が出ないことがある ● 内部に水や異物が入った ● 本体に変形や破損した部分がある ● その他の異常や故障がある	▶	**故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　）　　－	品番	SC-ZT2
お客様ご相談窓口	☎（　　）　　－	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ

〒571－8504 大阪府門真市松生町１番15号